

自動車研究開発コースとは

自動車研究開発コースは “Hondaのものづくり” を学ぶ学科です

本田宗一郎は、
1958年F1へ参戦する6年前※1 にこう言いました。
※1 Honda F1初参戦1964年

”できるか
できんか
わかんねえけど、
俺はやりてえよ”



そんな本田宗一郎が創設した学校で

”できるか
できんか
わかんねえけど、
ものづくり
やってみませんか？



自動車研究開発コース 3つの特徴

約8割が
Honda関連企業へ
就職

自動車研究開発コースの卒業生の約3割が本田技研工業(株)、約3割がHondaグループ企業、約2割がHonda取引先企業へ就職しており、学科創設以来、就職内定率100%※2を継続しています。

※2 2006年創設 自動車研究開発科 実績

自動車開発の
プロセスを
実践的に学ぶ

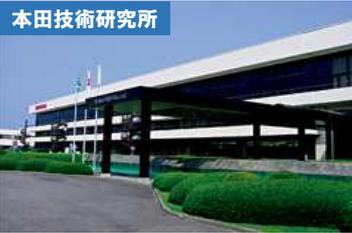
Formula SAEというフォーミュラカーを製作する競技を教材として、Hondaの量産車開発と同じく「企画→設計→製作→テスト」という開発プロセスを、実践的に学びます。

教員は全員
本田技術研究所
出身

Hondaの車両開発プロセスを教える教員は全員、(株)本田技術研究所で実際に車両開発を行ってきたエンジニアであり、開発の実際の経験を学生へ伝えます。

研究開発とは どのような仕事？

研究開発とはどのような仕事か？それは非常に多岐にわたります。いくつかの職種を紹介します。
多くの卒業生が、多くの領域で活躍しています。



自動車研究開発コースの充実した設備



自動車研究開発コースは
一番新しく建設された4号館で学びます。



CADの授業を行います。
CAD用のノートパソコンを用品です



実習の授業を行います。
リフトに実習車両が並んでいます



実習の授業を行います。
エンジン単体などの授業も、実習場で行います



車両(フォーミュラカー)などの製作を
行います。フライスが3台あります。



車両(フォーミュラカー)などの製作を
行います。定盤(正確な平面を持つ盤)
を備えています。



車両(フォーミュラカー)などの製作を
行います。旋盤が2台あります。



車両(フォーミュラカー)などの製作を
行います。切削・研磨作業を行います。



エンジンの性能試験を行います。



エンジンの性能試験を行います。

教員紹介

自動車研究開発コースの教員を紹介します。
教員は全員、(株)本田技術研究所 四輪R&Dセンターで
実際に車両開発を行ってきたプロフェッショナルです。
各々が専門領域を持ち、深い専門知識と豊富な経験を学生たちに伝えます。
このような経験を持つ教員が揃う学校は、
ホンダテクニカルカレッジ関西の自動車研究開発科以外他にありません。

R&D

Honda R&D Co.,Ltd.
株式会社本田技術研究所

四輪R&Dセンター



泉田 泰行
【専門領域】試作加工

研究所では第3期F1を主としてレースエンジンの機械加工を担当。
またプレス金型の機械加工なども担当し、ものづくり一筋で過ごしてきました。
実際にものを作る楽しさを伝えていきます。



上野 正治
【専門領域】エンジン試作

研究所では試作車のエンジン、車体の組立を担当。
1980年代はF1のメカニックを担当し、数年間 世界を転戦しました。
その他にも、1960年代F1のレストア、燃料電池車の試作も経験しました。
長年の現場経験から、車作りの楽しさを伝えます。



木村 泰之
【専門領域】エンジンテスト

研究所ではエンジンの性能テストを担当。
市販車だけでなく、第3期F1エンジンのテスト責任者も経験しました。
エンジンだけでなく、開発手法の面白さ、難しさを伝えていきます。



神通 邦彦
【専門領域】エンジン設計

研究所ではV6・V10エンジンの設計を担当。
また、自己啓発でシビックハイブリッドによるレース活動にも参加し、車体電装設計も経験。
幅広い知識を学生達に伝えます。



宮川 純
【専門領域】シャシ設計

研究所ではブレーキの設計を担当。
また、CIVIC・FIT・CR-Zなどのシャシ設計プロジェクトリーダーも担当。
自動車のことを一緒に勉強しましょう！



宮村 智也
【専門領域】高圧電装

研究所ではHEV/EV/FCV向け走行用モータの性能評価／動作解析などを担当。
私生活では人生の半分を、
ソーラーカー／小型EVの製作＆競技会参加などに費やしてきました。
著書に「加速スイッチON！電気自動車の製作」(CQ出版)。